

# 地方通信



## 名敦道路の完成迫る

名古屋から大陸へ出る最捷徑路として目下實施中の名古屋、敦賀間百四十キロの名敦産業道路改修工事は名古屋市外枇杷島町、木曾川間をはじめ大垣市内、大垣、米原間を残すのみとなり愈々明年度中には完成する運びとなつたので縣、名古屋市長、田淵内務省名古屋土木出張所長らの一行は近く名敦道路の實地調査を行ふことになつた。

名敦産業道路は名古屋を起點として岐阜大垣、米原、長濱を經由して敦賀を終點とする最小幅員(山間部)〇メートル、最大幅員〇〇メートルで完成の曉はアスファルト舗装による坦坦たる道路が敦賀までつゞき

之までトラック運轉が全然出来なかつた名敦間を僅か四時間で疾走させやうといふのであつて、敦賀港を大陸の玄關とする名古屋は北鮮を經由して大陸へ結ぶ最短の産業ルートを形成し名敦道路完成を契機として名古屋の躍進こそ期してまつべきものがあらう。

## 左側通行のタイル文字道路上にタイルで現はる

宇野驛前から澁川海岸に至る二里のアスハルト道路上に、タイルで「左側通行」の文字を入れ交通整理に一役買はせようといふ案が宇野署で目下立案されてゐる。

この宇野市を東西に貫通する幹線道路は縣下でも交通量の最も多い道でバス、ハイヤー、自轉車、歩行者等で雑沓し特に朝夕の工場通ひのラッシュには幾千といふ物凄いが潮の如く流れて危険極まりないので、縣下ではトツプを切つて道路上に唐津で文字を浮かした標語を入れようといふことになつたのである。

## 茨城縣下涸沼川の改修工事

那珂川の河川改修實現も見通しがついたので、縣では那珂川の改修と密接不可分の關係にあつた涸沼川の改修に着手すべく計畫を進めつゝある、即ち那珂、小貝兩川は政府直轄によつて事業が興されることゝなつてゐるのであるが、右以外の河川にして改修の緊要性を痛感されるものに涸沼川がある。縣では、國庫補助を得て全面的な改修を十七年度より實施する意向で計畫を進めつゝあるものである。本年の大水害に

は瀧沼川沿岸の水田は一千餘町歩の被害を受けけるに至つたが、これは瀧沼川の形勢が氾濫する濁水を吐き出し得ないため兩岸の水田は冠水を餘儀なくされてゐるものでこれを防除するには先づ大貫町堀川と稱する運河をそのまま延ばして同町地先海岸に貫流せしめんとするもので常時は海水の浸入を防ぐため現堀川地點に開門を設けることなども考究されてゐる。

## 名古屋交通難も解消か

名古屋市内の平面的發展を阻害してゐる省線、私鐵の高架問題は多年の懸案となつてゐたが土木學會中部支部でこの問題を取りあげ先に設置した名古屋市内立體交叉調査委員會がこれまで數回にわたつて討議した机上論から一步進んで現地の詳細なる調査を開始、こゝに高架問題は最近各方面をあげて喧しく叫ばれてゐる交通難緩和といふ漸らしい使命をも帯びて愈よ本格的軌道に乗つて來た。

右につき内務省名古屋土木出張所の千田工務部長は次の様に語る。

高架問題は相當具體化して來た私としてはこの問題を技術者の立場からと第三者的な一市民の立場からして是非解決せねばならぬ責任があると考へてゐる。委員會設置後はじめて中央線の實地調査をやつて見たがこれは終點が名古屋になつてゐる關係上東海道線、關西線等の連絡とも睨み合せてかゝらねばならぬので省線の高架問題のうちで一番難問題だ、どうせやりかけたのだから單なる高架だけでは満足せず名古屋の將來を考へて交通難緩和のため百年の大計を樹立する方針である。中央線を高架にすれば必然的に運轉系統も變つてくるだらうし、市電の並行線敷設といふことも考へられる。しかしこれは相當經費を要する問題であるが、われ／＼技術者としては計畫だけは立案しておく必要がある、東京の省線のやうに市の周邊部に循環線を敷設するといふことも將來必要となつて來ることだら

うが、この問題はいづれ別の委員會を設けて研究することになるだらうと思ふ、とに角百年後の大名古屋を考慮してあらゆる角度から検討し、これならば絶對的理想案だらうといふ計畫を今年中に作成したい調査を行つた、引きつゞき近く第二回調査を行つて中央線高架の理想案を作成これを委員會に諮り討議の上、完成案として實施に移す方針である、今回の實地調査の結果によると、中央線高架は名古屋市東部の躍進をはかるために平面交叉の踏切を除去するのが目的であるが、百年後の名古屋の飛躍を考へれば單なる高架問題のみに捉はれず都市交通の圓滑なる發展をはかる必要があるといふので路面の高架を機會に中央線の複線化と中央線と併行して市電の運轉さらに進んで東京市のごとく市の周邊部を循環線敷設等が話題にのぼり技術者の眞剣なる研究題目として今後の具體化が期待される。